

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 極洋

コード番号 1301 URL <http://www.kyokuyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 福井 清計

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長

(氏名) 上島 幹雄

TEL 03-5545-0703

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	70,465	△4.3	1,209	△53.8	1,550	△37.5	686	△53.4
21年3月期第2四半期	73,644	—	2,615	—	2,480	—	1,471	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	6.49	—
21年3月期第2四半期	13.86	13.86

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	67,321	18,211	26.4	167.82
21年3月期	61,184	17,842	28.7	165.72

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 17,757百万円 21年3月期 17,535百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	5.00	5.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150,000	1.7	2,700	△9.4	3,000	4.4	1,500	△5.5	14.18

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	109,282,837株	21年3月期	109,282,837株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	3,471,332株	21年3月期	3,471,546株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	105,811,536株	21年3月期第2四半期	106,178,409株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

業績予想の前提となる仮定等については、4ページ【定性的情報・財務諸表】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な景気の低迷が長期化するなか設備投資の縮小、雇用の調整、円高の進行など、先行きに対する見通しは依然として極めて不透明な状況が続いております。

水産・食品業界においても、消費者の生活防衛意識による節約志向、低価格志向がますます高まり、個人消費が低迷するなど厳しい展開となりました。

このような状況のもとで、当社グループは安心・安全な食品を提供することを責務とし、更にグローバル戦略と加工戦略の推進による事業基盤の強化と収益の確保を重視し、積極的かつ効率的な運営に努めました。

水産商事事業セグメントでは、北洋魚の取り扱い減少や、消費者の低価格志向、国内外の市況低迷などの影響でかになど高単価商材の販売が低迷したことなどにより、売上、利益とも前年同期を下回りました。

加工食品事業セグメントにおける水産冷凍食品は国内向けには寿司種商材、加熱用商品を、欧米向けにはタイのKUE社で生産した寿司関連商材の拡販に努めました。調理冷凍食品では原料事情の影響から畜肉製品の取り扱いが減少したことに加え、高単価製品の販売が低迷しました。常温食品は、新型インフルエンザ対策や消費者の内食回帰による缶詰需要から魚介缶詰を中心に拡販することができ、㈱ジョッキの連結子会社化もあり、順調に推移しました。同セグメントは、前年同期に比べ売上は上回りましたが利益は下回りました。

物流サービス事業セグメントでは、冷蔵倉庫事業は営業力強化と事業の効率化に努め順調に運営できましたが、冷蔵運搬船事業が急速な円高や国際的な市況低迷の影響を大きく受けたことにより、売上、利益とも前年同期を下回りました。

鰹・鮪事業セグメントにおけるかつお・まぐろ製造加工及び販売は生産体制の効率化、外食ルートなどへの積極的な拡販に注力した結果、売上、利益に貢献しましたが、海外まき網事業は東沖の不漁などでの漁獲量の減少とかつお魚価下落の影響などにより、同セグメントは売上、利益とも前年同期を下回りました。尚、かねてより建造中であった海外まき網船「第7わかば丸」は10月1日に完工し、同月中旬操業を開始しました。また事業開始から3年目に入った本鮪の養殖事業は9月に初出荷を行い、順調に推移しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は704億65百万円（前年同期比4.3%減）、営業利益は12億9百万円（前年同期比53.8%減）、経常利益は15億50百万円（前年同期比37.5%減）、四半期純利益は6億86百万円（前年同期比53.4%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末に比べ61億37百万円増加し673億21百万円となりました。

流動資産は受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ52億46百万円増加し、489億99百万円となりました。固定資産は新船建造に係る有形固定資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ8億90百万円増加し、183億22百万円となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金、長期、短期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ57億68百万円増加し、491億10百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加により株主資本合計が前連結会計年度末に比べ1億57百万円増加、評価・換算差額等合計が64百万円増加、少数株主持分が前連結会計年度末に比べ1億46百万円増加した影響などにより、純資産合計は前連結会計年度末に比べ3億68百万円増加し、182億11百万円となりました。

この結果、自己資本比率は26.4%（前連結会計年度末比2.3ポイント減）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想に関しましては、当第2四半期連結累計期間の業績及び先行きにおいても国内外の経済環境の低迷や消費者の生活防衛意識による節約志向、低価格志向の高まりなど厳しい環境の継続が予想されることなどを考慮に入れ、平成21年5月15日公表の業績予想から修正を行っております。詳細に関しましては、本日別途開示する「平成22年3月期第2四半期累計期間の業績予想値と決算値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当する事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①四半期特有の会計処理

該当する事項はありません。

②簡便な会計処理

・ たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

・ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

・ 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却費の算定に関しては、年間償却予定額を期間按分する方法により、期首からの累計期間の減価償却費として計上しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当する事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,792	3,786
受取手形及び売掛金	18,304	16,880
商品及び製品	22,125	18,617
仕掛品	607	399
原材料及び貯蔵品	1,836	2,322
その他	3,401	1,786
貸倒引当金	△67	△40
流動資産合計	48,999	43,752
固定資産		
有形固定資産	11,390	10,231
無形固定資産		
のれん	140	148
その他	491	535
無形固定資産合計	631	683
投資その他の資産		
投資有価証券	3,441	3,850
その他	2,883	2,692
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	6,299	6,517
固定資産合計	18,322	17,432
資産合計	67,321	61,184

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,715	6,315
短期借入金	29,002	25,266
未払法人税等	507	882
引当金	634	674
その他	4,559	4,454
流動負債合計	42,420	37,594
固定負債		
長期借入金	2,772	2,085
退職給付引当金	3,086	2,609
その他の引当金	57	65
その他	774	985
固定負債合計	6,689	5,747
負債合計	49,110	43,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,664	5,664
資本剰余金	749	749
利益剰余金	12,194	12,037
自己株式	△611	△611
株主資本合計	17,997	17,839
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△245	△244
繰延ヘッジ損益	12	8
為替換算調整勘定	△6	△69
評価・換算差額等合計	△239	△304
少数株主持分	454	307
純資産合計	18,211	17,842
負債純資産合計	67,321	61,184

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	73,644	70,465
売上原価	63,775	61,491
売上総利益	9,868	8,973
販売費及び一般管理費		
賞与引当金繰入額	502	480
退職給付費用	535	670
貸倒引当金繰入額	—	7
その他	6,215	6,606
販売費及び一般管理費合計	7,253	7,764
営業利益	2,615	1,209
営業外収益		
受取利息	18	26
受取配当金	63	275
為替差益	—	146
その他	66	90
営業外収益合計	148	539
営業外費用		
支払利息	237	178
その他	44	20
営業外費用合計	282	198
経常利益	2,480	1,550
特別利益		
固定資産処分益	0	5
受取保険金	18	—
その他	2	0
特別利益合計	20	5
特別損失		
固定資産処分損	1	2
投資有価証券売却損	—	287
その他	4	19
特別損失合計	5	308
税金等調整前四半期純利益	2,496	1,247
法人税、住民税及び事業税	1,266	560
法人税等調整額	△226	△113
法人税等合計	1,040	446
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△15	114
四半期純利益	1,471	686

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,496	1,247
減価償却費	631	684
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	25
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	290	476
その他の引当金の増減額 (△は減少)	1	△49
受取利息及び受取配当金	△81	△69
支払利息	237	178
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,668	△1,405
その他債権の増減額 (△は増加)	△91	△521
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,623	△3,164
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,423	1,427
その他	338	△1
小計	△2,043	△1,172
利息及び配当金の受取額	80	64
利息の支払額	△251	△179
法人税等の支払額	△1,077	△898
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,292	△2,185
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△819	△1,657
固定資産の売却による収入	0	5
投資有価証券の取得による支出	△6	△22
投資有価証券の売却による収入	—	372
貸付けによる支出	—	△1,130
子会社株式の取得による支出	△308	—
その他	△23	36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,157	△2,395
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,742	3,556
長期借入れによる収入	380	976
長期借入金の返済による支出	△264	△227
配当金の支払額	△531	△529
その他	△376	△171
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,949	3,604
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	13
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	513	△963
現金及び現金同等物の期首残高	2,836	3,707
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,349	2,744

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

該当する事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）（単位：百万円）

	水産商事	加工食品	物流 サービス	鯉・鮪	その他	計	消去又は 全社	連結
I 売上高及び営業損益 売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	34,946	25,236	3,262	10,166	32	73,644	—	73,644
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,274	969	319	377	332	8,274	(8,274)	—
計	41,220	26,206	3,581	10,544	365	81,918	(8,274)	73,644
営業利益	1,045	553	453	826	64	2,943	(328)	2,615

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業区分の事業内容及び主要製品

事業区分	事業の内容	主要製品
(1) 水産商事	水産物の買付、販売	冷凍魚介類
(2) 加工食品	冷凍食品の製造、買付販売及び缶詰等の加工食品の販売	冷凍食品、缶詰
(3) 物流サービス	冷蔵倉庫業及び海上運送業	
(4) 鯉・鮪	鯉・鮪の漁獲、養殖、製造加工、販売	冷凍かつお、まぐろ
(5) その他	保険代理店業等	

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）（単位：百万円）

	水産商事	加工食品	物流 サービス	鯉・鮪	その他	計	消去又は 全社	連結
I 売上高及び営業損益 売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	30,513	27,925	2,452	9,545	27	70,465	—	70,465
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,494	758	328	361	350	8,294	(8,294)	—
計	37,008	28,684	2,781	9,906	378	78,759	(8,294)	70,465
営業利益	433	477	127	426	57	1,522	(313)	1,209

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業区分の事業内容及び主要製品

事業区分	事業の内容	主要製品
(1) 水産商事	水産物の買付、販売	冷凍魚介類
(2) 加工食品	冷凍食品の製造、買付販売及び缶詰等の加工食品の販売	冷凍食品、缶詰
(3) 物流サービス	冷蔵倉庫業及び海上運送業	
(4) 鯉・鮪	鯉・鮪の漁獲、養殖、製造加工、販売	冷凍かつお、まぐろ
(5) その他	保険代理店業等	

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

該当する事項はありません。